

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 29 年度

事業所番号	2790900340		
法人名	株式会社関西サンガ		
事業所名	まかみグループホーム翔裕館		
所在地	大阪府高槻市西真上1丁目36-15		
自己評価作成日	平成 30年 1月 10日	評価結果市町村受理日	平成 30年 2月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JigyosyoCd=2790900340-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 30年 2月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は平成27年4月に開設し3年を迎えます。開設以来、地域に開かれたグループホームをめざしボランティアや保育園児との交流に力を注いできました。特に今年度は毎月の見学会を施設全体の取組として行い、老人会の方及び広く地域の方々へもチラシを配布しグループホームの事を知って頂く機会としています。季節ごとの行事には地域の方をお招きし、秋祭りには園児との交流も深め、入居者の満足度の向上に努めています。昨年度から実施している学習療法により、日常生活のQOLの向上は目を見張るものがあり、法人内で研究発表をする準備をしています。入居者だけでなく、職員一人ひとりが役割を持ち、働く意欲を持つことが入居者へのサービスの向上につながるという考えのもと、取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者介護等の事業を多角的に全国展開している株式会社が運営する複合施設として、居宅介護支援事業所・デイサービス・住宅型有料老人ホームを併設している2ユニットのグループホームです。開設して3年目のホームは、バス停に近く交通の便の良い町中に立地しています。4階建ての2・3階がグループホームとなっています。玄関には、ボランティア手作りのベンチや郵便受けがあり、絵画作品はユニットの空間を潤わせています。共有空間は広くゆったりしており利用者は本を読んだり、洗濯物をたたんだり、トランプをしたり、ソファでテレビを楽しむなど思い思いに過ごしています。平成29年度には学習療法を取り入れ、利用者の会話に花がさくようになり利用者・家族から好評を得ています。介護事業部部長・管理者は職員の育成に重きをおいています。キャリアパスの導入や多くの会議・委員会に参加することで役割や責任を持つことが、働く意欲に繋がるような仕組み作りを進めています。管理者・職員は地域で一番必要とされるホームを目指して日々のケアに取り組んでおり、今後が期待されるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて理念の唱和をする事で職員間の意識の統一を図り、質の向上に努めています。	管理者や職員は、理念をホームの運営、サービスの実践上重要なものと認識しています。「私たちは、高齢者社会で果たす役割の重大性を自覚し、明るく元気ですこやかなヒューマンライフを支えます」を法人理念と定め、玄関入口や各ユニットに掲示しています。管理者・職員は、「★家庭的な雰囲気・笑い・笑顔・丁寧な対応★チームよく より良いケア」を具体的なホームのスローガンに掲げ、理念の実践につなげています。 スローガンは、毎年職員間で話しあって見直し、理念と共に掲示しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設行事の秋祭りや消防訓練の参加を地域の方へ声掛けし、地域との交流を深めています。	利用者と職員は、ホームの秋祭りでの地域住民との交流、近隣保育園の園児との交流を図っています。また、地域住民の習字・お話ボランティア等の交流はクラブ活動として利用者の楽しみとなっています。ホームでは、「子ども 110 番の家」の旗を掲げたり、老人会等地域住民に対して「見学会」を毎月開催したりして、地域住民が安心して暮らしていけるよう、住民の理解を得る取り組みが進んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	昨年4月には高槻市長寿いきがい課を講師に、認知症サポーター養成講座を開き、地域の方と認知症の理解を深める機会を持ちました。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では運営状況・ユニットでの生活状況や取り組みを報告し、地域の方や包括支援センターとの情報交換に努めています。又、家族や入居者からも意見を伺い、サービスに反映しています。	運営推進会議は、家族・民生委員・地域福祉委員・地域包括支援センター職員・管理者・介護職員等の参加のもとで2ヶ月ごとに開催しています。会議は、ホームから事業や行事の報告、今後の行事予定、利用者の状況報告を詳細に行い、参加者との意見交換を通じてサービスの向上に活かしています。会議の議事録は、ホームの出入口に閲覧ファイルとして置き、誰でも自由に確認することができます。また、議事録は全家族に送付して多くの家族の参加につながるよう取り組んでいます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を直接福祉指導課に提出する際に、情報交換の場としています。	市の担当課とはいつでも相談できる関係にあります。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議において報告・相談をして、情報提供や助言を得ています。平成29年4月には、市の長寿介護課担当者を講師に招き「認知症サポーター養成講座」を開催する等して、積極的に協力関係を築くように取り組んでいます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所で開催される身体拘束や認知症の研修を通じて学ぶ機会があり、研修の出欠に関わらず全職員に報告書を提出してもらっています。日々の認知症ケアの中で身体拘束をしない、人権や尊厳に配慮したケアの取り組みを行っています。	職員は内部の研修会で身体拘束廃止や人権について研鑽し、意識を高めて身体拘束をしないケアに取り組んでいます。玄関外側は自動ドアでオープンとなっています。内側・2・3 階ユニットへのエレベーターは電子ロックで施錠していますが、1 階エレベーターには暗証番号を明示しています。外出希望者には、見守りと付き添いで対応をしています。管理者・職員は、ホーム建物前の道路の交通量が多いこと等から安全のための対策などを市担当者と相談をして、現在の取り組みとなっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所で開催される虐待防止の研修を通じて学ぶ機会があり、スピーチロック等の不適切な対応がないよう特に言葉には十分気を付け対応しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所で開催される研修に於いて、成年後見人制度を学ぶ機会があり、玄関にはパンフレットを置く事で家族への案内をしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重説にてサービス内容・料金等の説明を行い、不安な点等について、その都度具体例をあげ説明しています。少しでも不安が軽減し利用が開始出来るように取り組んでいます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一度の運営推進会議やサービス担当者会議以外にも居室担当を作り話しやすい環境や面会時に意見や要望を聞き、情報交換を行っていいます。また、玄関へ意見箱を設置し、プライバシーにおいても配慮しています。	2ヶ月毎に発行の広報誌「元気だより」や、利用者一人ひとりの生活状況を写真中心に作成した「お知らせ文」を毎月家族に送付しています。広報誌やイベントのお知らせはエレベーター内やユニット掲示板に掲示する等しています。家族が訪問の折には、職員が利用者の状況を報告しながら、要望や意見の聴取に努め、記録して職員間で共有しています。管理者は家族交流会を年1回開催し、家族との交流の中で意見や要望を聞く機会を設けています。また、運営推進会議に家族の参加があり、家族の意見や要望をホームの運営に反映していく機会となっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議やカンファレンスだけではなく、職員には居室担当や各委員・係りの役割を持つ等の意見交換が出来る環境を作っています。また、日々のケアや相談は個別にて対応しています。	ホームでは、管理部・デイサービス・有料老人ホーム合同での会議及び委員会を年間計画に沿って実施しています。委員会はサービス向上・感染症対策・事故ヒヤリ・苦情・身体拘束・経費節減・研修・行事・レク・給食等、多数あり、職員が一人 2～3 委員ずつ担当を持つことで、現場の多くの職員の意見や要望を出せるようにしています。毎月のユニット会議では、業務やケアについて意見を出し合っています。会議に参加できなかった職員には会議内容を回覧して確認をしています。また、申し送りノートを活用し、意見交換を行っています。職員からのアイデアで、鍋パーティーをするための大きな電気鍋を購入して利用者から好評を得た事例があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員がそれぞれの力量に応じて目標を持ち、半年に一度自己評価と適宜面談する事で職員の配置へ反映しています。又、職員間のコミュニケーションを大切にする事でお互いに学び合う関係性を築いています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じて、外部での研修の機会を提供し、研修報告書の提出も必ず行っています。また、伝達研修も実施し、職員のスキルアップに繋がっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月一度、同法人内の他施設の管理者間による部会を通じて情報交換を行い、よりよりサービスが提供できるよう取り組んでいます。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約前の面談で本人の情報収集し、不安や困りごとが少しでも少なくサービスが利用できるよう関係作りに努めています。また、入所時より居室担当を付け、その方にあったケアが提供できるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談に於いて、家族や本人に対する思いやグループホームへの要望を確認し、グループホームでの支援について共に考えていく事が出来るよう関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談で得た情報をもとに、本人や家族が必要としている支援について、管理者・計画作成者・職員等で話し合い支援方法を検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で共に役割を持ち、支え合い暮らせる環境作りに努め、信頼関係を築く事が出来るよう支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月に手紙や日々の様子を伝え連絡を密に取り、家族と共にサポートする事で本人を中心とする関係作りに取り組んでいます。また、家族にしか出来ない関わりや関係性を重視しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと、買い物や知人・親戚の方の面会等の関係が途切れないよう支援しています。	家族と行きつけの美容院や墓参りに出かけたり、外泊をする利用者もいます。携帯電話を所持して、自由に家族や友人とも会話を楽しんでいる利用者もいます。行事・レク委員会は年間計画に「年賀状作成」をたてています。利用者に新年を感じてもらい、家族にも喜んでもらうことを目的として年賀状を出す支援を行っています。ホームでは馴染みの関係が途切れないような支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で入居者が孤立しないよう職員の関わりや入居者同士が協力し作業できる環境を提供しています。また、座席にも配慮し、談話が出来るような関係・雰囲気が作れるよう環境整備しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に他施設へ行かれた際、管理者・相談員より入居者の相談や助言を行っています。また、家族からの問い合わせがある際は対応出来る体制を整えています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のカンファレンスやモニタリングでセンター方式を活用し、入居者の目線で関われるように行っています。また、日常での気づきや家族からの情報・表情や会話等で意向をくみ取り、個別に応じたサービスに努めています。	計画作成担当者は、利用者・家族から入居時に一人ひとりの思い・意向を把握し、介護計画に活かしています。入居後は、「私の姿と気づきシート」に把握した利用者の思い・意向を記載し、「医療との連携シート」「ご家族との連携シート」を活用し、介護記録を丁寧に記載することで、利用者一人ひとりの思いを汲み取るようにしています。	今後、利用者と職員の会話やふれあいの中で、利用者の思いにふれたり、意向が把握できた時には支援経過や申し送りノートに記入し、表情やしぐさからもしっかり思いや意向が読み取れるような記録になることが期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、家族より本人の生活歴・生活環境・生活リズム等の情報収集に努めています。また、昔の様子についても日々の会話の中や面会時に家族より情報を得ています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の暮らしについて、本人の体調やリズムに合わせ、その中で本人の能力に応じた自立支援を目指しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	訪問診療や看護師との連携・意見・退院時にはサービス担当者会議を開き意見交換し、家族には面会時に要望を確認する事でケアプランに反映させています。また、プラン交付時に同意を得ています。	介護計画は 3 ヶ月を原則として見直しています。モニタリング、カンファレンスは毎月全職員で行っています。介護記録を丁寧に記載することで利用者の思いや要望を汲み取っています。変化のあった時、統一したケアが必要な場合には家族、医師、看護師、担当者、介護職員、計画作成担当者等、様々な職種でサービス担当者会議を実施しています。必要時には都度計画の見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録はケアプランに添って記入し、特変や些細な事も全職員が分かるように記入しています。また、毎月のモニタリングやカンファレンスで得た情報をケアプランへ反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の要望をもとに家族様に伝え職員へ周知し個別にて支援するだけではなく、近隣との交流を含め、良い関係が築けるよう努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児・地域の方へ施設行事への参加を声掛けし、ボランティアとの交流への力を入れています。また、日々にレクでは近隣へ散歩に出かけています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療と週1回の訪看の際は、職員付き添いにて現状報告し適切な指示を仰いでいます。また、協力病院との連携や専門医の受診が必要な際には、職員付き添いにて現状報告し対応の相談を行っています。	入居前からのかかりつけ医を受診している方もいます。ホーム主治医は毎月2回往診し、毎週1回の看護師の訪問と合わせて入居者の健康管理を行っています。夜間や急変時は24時間オンコールにより連絡をとり必要な指示を受けています。歯科の往診も月に2回行われており、その他受診が必要なときは家族対応となっていますが、家族の付き添いが困難なときはホーム職員が付き添って受診の支援をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の往診時や入居者に特変があった際には相談する等の24時間365日オンコール対応と、緊急時には看護師がかけつけてくれる体制を整えています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護サマリーをもとに情報提供しています。また、協力病院が近くにあり、頻繁に面会を行い、病棟看護師との情報の共有と退院時には密に連携し、早期退院に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の契約に於いて、重度化や看取りの説明を行っています。また、重度化や看取りの研修を行い、職員へ周知しています。	「看取り、重度化への対応指針」を作成し入居時に本人、家族に説明しています。現在、看取りの対象者はいませんが、入居者の重度化と共に希望があればホームでの看取りを実施する予定でいます。「看取りマニュアル」も整備し、研修も実施しており、協力医療機関との連携に向けて準備を進めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1度のAEDの講習を実施し、急変や緊急時の対応の研修を行っています。また、不安な点がある際には随時看護師へ相談し、緊急時に対応出来る体制をとっています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署指導のもと避難訓練を実施しています。訓練には入居者や地域の方へ声掛けし、避難場所・経路・誘導方法・対応について行い、職員の行動の再確認を行っています。	年に 2 回併設の事業所と合同で消防署の立会いのもと避難訓練を実施しています。ホーム独自で夜間を想定した避難訓練を年に 1 回実施しています。訓練には地域の老人会の参加があり、訓練終了後、職員と共に AED や消火器の取り扱いについて消防署よりの指導を受けています。ホームの立地により水害が想定されることから「風水害・土砂災害に対応するマニュアル」を作成しています。各フロアには災害時の避難場所の地図の掲示があり、災害時の備蓄は水や食料以外の医薬品なども準備しています。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修に於いて、接遇やプライバシーの保護を学び、特に言葉遣いには気を付け声掛けを行っています。また居室へ入る際は必ずノックし入室を行っています。	接遇やプライバシーについての研修は年間研修計画に基づいて計画的に実施しています。言葉遣いは、目上の方に対して指示的な口調や子ども扱いするような口調にならないように指導しています。日々の関わりの中で気になるような言葉がけに気づいたときは、お互いに注意し合える関係ができています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	リビングや居室等、自立支援を常に意識し入居者が過ごしやすい環境を提供しています。また、食レクや外食に於いて、入居者の意見を取り入れるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の要望に添えるよう心掛けています。要望に添えない際は、説明し納得して頂き、時間をずらす等の対応を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や更衣時・外出の際には入居者の趣味嗜好が選べるように支援しています。また、可能な限り自分で出来る様に援助していく事でその人らしさを支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力に応じて、配膳・下膳・盛り付け・洗い物等と一緒にしています。また、入居者の嗜好を取り入れた食事の機会を提供しています。	業者により作成された献立に基づいて食材が届き、各ユニットで炊飯、調理しています。利用者は下ごしらえ、味付け、盛り付け、配膳などそれぞれが役割を持って参加しています。利用者の嗜好を食事に反映するために毎週1回「食レク」として、メニューの決定から買い物、調理を職員と一緒にしています。お好み焼き、うどん、鍋料理、ちらし寿司など、楽しく会話を弾ませながら利用者全員で作っています。オヤツは毎日手作りで提供し、和食やハンバーガーショップなど利用者の希望があれば外食の支援もしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜や魚が多く、バランスの摂れた食事を提供し入居者の食べやすい食事形態・量を個別にて対応しています。1日の水分量も1000を目指し、月に1度体重測定を実施しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回歯科往診があり口腔内の清潔保持の指導を受けています。食後の口腔ケアを促し、自歯の方には歯間ブラシの声掛け・見守りを実施しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートを活用し個別での排泄パターンを把握し、排泄の支援や誘導が必要な入居者には自尊心が傷つかないように配慮してます。	各フロアに3ヶ所あるトイレのうち、1ヶ所は車椅子での対応ができるように広い環境を整えています。 現状では排泄が自立か、自立に近い利用者の多いホームですが、一人ひとりの排泄パターンを把握し、さり気なく声かけしてトイレに誘導しています。介助時は必ずトイレのドアを閉めるなど、自尊心に配慮した支援を心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促すだけではなく、個別にて運動や散歩・入浴時には腹部を温める等の対応をしています。また、排泄時にはウォシュレットを使用し排便を促せるよう心掛けています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴では、曜日・午前・午後 の時間を可能な限り入居者の希望に 添えるよう心掛けています。また、夏場 はシャワーを1日増やし、清潔保持が 出来る様支援しています。	入浴は週 2 回を原則として支援してい ます。夏場には、シャワー浴を 1 日増 やして、清潔保持の対応もしていま す。入浴を好まない利用者には声かけ や、さり気ない対応で支援をしていま す。以前、入浴をととても嫌がる利用者 に対して、チーム・家族の協力等を得 ながら根気よくコミュニケーションを続 けたことによって、「あなたとなら入って いいよ」と入浴オーケーサインをもらっ た担当職員が、「このときほど介護とい う仕事をやっていてよかったと思ったこ とはありませんでした」と、法人が発行 する書籍に報告をしています。職員は 利用者の気持ちに寄り添った支援をし ています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安心 して気持ちよく眠れるよう支援して いる	日中居室やソファ等、入居者それぞ れのペースにて過ごしてもらっていま す。活気的な生活が送れるように、レ クや体操・学習療法等を取り入れ、夜 間の安眠に繋げています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服チェック表は職員が分かるように詰所にファイルを設置しています。内服の変更がある際には、その都度記録し申し送る等口頭でも伝えるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外気浴・散歩・レク・体操・学習療法・ボランティアとの交流等ケアプランに組み込み支援し、入居者の出来る能力を最大限支援・援助しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な買い物や職員との外食・駐車場で洗濯物干し、花摘みを行い、行事でのドライブ等で季節感を感じてもらえるように支援しています。	職員は、天気の良い日には利用者の希望や体調にそって、個別の外出支援に努めています。近隣への散歩や、玄関先の広い駐車場の一角にある洗濯場では、洗濯物を干したり取り入れたり、利用者と職員は会話をしながら外気浴をする等しています。また、行事でのドライブ等で、初詣や花見、公園等に毎月出かけています。外泊や墓参り等の機会には、家族の協力を得て、利用者一人ひとりの思いにそった外出支援にも取り組んでいます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する方は現時点ではおられません、買い物の際には自身で払ってもらえるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば使用して頂けるよう対応しています。また、友人や家族との関係が途切れない様に支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	作業レクでは皆で作成し、月毎の飾りで季節感を感じてもらえるように配慮しています。また、リビングには温湿度計を設置し、快適に過ごせるよう調整しています。ソファでくつろげる空間や本棚、椅子はクッション等で高さ調節を行っています。	利用者が集まるリビングは広くて明るく、利用者はゆったりと職員との会話を楽しみながら過ごしています。リビングの片隅にゆったりとしたソファが置かれ大きな窓からは外の景色が見え、落ち着いた雰囲気です。ベランダには天気の良い日には布団などを干しています。廊下は広くて長いので途中でソファコーナーを設けています。また、地域住民から寄贈された絵画(近隣の風景や花の絵)をあちらこちらに飾るなどして、居心地よく過ごせるような空間づくりとなっています。冬場には加湿器を設置して環境にも配慮しています。リビングの隅にあるオープンキッチンからは食事の準備の音が聞こえ、美味しいにおいが香り、キッチン越しに職員と利用者の会話が弾んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングにソファを設置し、他者や職員の目を気にせずにくつろげる空間を提供しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた茶碗・箸・コップを使用して頂いています。居室には家族との写真や使い慣れた家具・仏壇を置く等、自宅と出来るだけ近づけ、安心して過ごして頂けるように支援しています。	居室入口には、利用者・職員の手作りのネームプレートや折り紙作品を飾り、自室がわかるようになっています。入居時には、使い慣れた家具、テレビ、時計、家族の写真、仏壇、ぬいぐるみ等それぞれの思い出の物を持ち込んで、自分で好きなように配置しています。机や棚には家族の写真を飾ったり、壁には職員手作りの誕生日の色紙が貼ってあり、安心して過ごせるようになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室が分かるように手作りの表札を設置し、作業レク等で作った作品を張り出したりしています。また、廊下の手すりを使用したり、歩行能力に応じて座席の位置も自身の居室に近い場所にする等の配慮をしています。		